

上京 史蹟と文化



ぶどうの 上京

1200年の歴史さんぽ

一条烏丸から一条堀川

上京探訪シナリオ研究会 豊田 博一

上京は平安京遷都（794年）以降、多くの歴史上の人物が往来し、歴史上の事件の舞台となった場所です。上京は狭いよう

の一条通は平安時代を代表する祭りである賀茂祭の祭列の順路（参2）として賑わいます。

く、各時代において中心となった地域は変遷しています。そんな上京で1200年を通じてほぼ市街地であった地域が一条烏丸から一条堀川の間を中心とする地域です（本稿ではこの地域を御所西一条と名付けてお話しします）。

この時期の御所西一条を象徴する場所が一条戻橋です。一条通の北側はまだ京外である風景と、南側は急速に市街化されていく風景のまさしく境界線として、さらには魔界や霊界との境界として一条通が意識される時代でした。このことから、一条戻橋（戻橋は大内裏の鬼門の方角）を舞台に魍魎魍魎の伝説が次々と生まれます。

一条通（参1）は平安京の最北端の大路であり、それより北は京外とされ平安京建設当初は原野が広がっていました。しかし平安時代の早い時期から、低湿であった

一条戻橋にまつわるエピソードは、数多くあります。①900年代前半、三善清行を息子の浄蔵が蘇生させた（参3）②1000年前後、渡辺綱が鬼女と遭遇（参4）③1000年前後、安倍晴明は一

右京が衰退し始め、左京のみが発達し、一条通を越えて北側へ市街地が広がりはじめます。また、左京

一条戻橋の下に式神を封じ込め、必要な時に式神を使役（参5）④1178年、建礼門院が安徳天皇を出産する際、二位尼が橋占をした（注1）⑤「今昔物語」では、

大みそかの夜に一条戻橋を渡っていた侍が灯を持った鬼の集団に出会い、人から見えない透明人間に変えられてしまう話⑥1467年

応仁の乱の激戦地⑦中世末期以降刑場さらし首の場所となる等々。またこれらの歴史を踏まえて近世には嫁入り前の女性や縁談に関わる者はこの橋を渡らない等々の験を担ぐ話が生まれました。（参6）

注1 『源平盛衰記・巻10・中宮御産の事』橋占をしてもらうと、14、15歳ばかりの童子が12人、西から手を叩きながら出てきて、「榻（牛車へ乗降する際に使う踏台）は何榻、国王榻、八重の塩路の波の寄榻」と、四、五返歌いながら、橋を渡り飛ぶように去る。二位尼は帰って弟の平時忠にこのことを語ると「国王榻」だから皇子が生まれるに違いない大変めでたいことだと答えましたが、生まれた子（安徳天皇）が八歳にて長門国壇ノ浦に沈むという下の句「八重の塩路の波の寄榻」の意味をよみとることができなかった。

平安時代の末頃には御所西一条の北に一条西殿、一条東殿、今出川殿（注2、地図6、7、8）が立ち並びます。これらは鎌倉時代には西園寺公経が所有する邸宅となります。西園寺公経は源頼朝の姪を妻とし、鎌倉幕府派貴族の筆頭とみられたため、承久の乱（1221年）では、後鳥羽上皇側に逮捕・拘禁されました。乱が鎌倉幕府の勝利に終わると、公経は内大臣を経て1222年に太政大臣となり、摂関をしのぐ権勢を誇ります。

注2 一条西殿、東殿は、頼朝の同母姉妹を妻とした一条能保の屋敷。西園寺公経は能保の娘を夫人とし、能保の一条邸に迎えられた。九条良経と一条能保娘の間に生まれた九条道家は16歳で西園寺公経の娘と結婚してこを伝授。

西園寺家はその後鎌倉時代を通じて権力を握り、西園寺家縁戚の邸宅が立ち並び御所西一条は上京の中心地となり、街並みも急速に北へ発展していきます。

は室町上立売から室町今出川の間の地域へと少し北へ移行します。しかし、御所西一条には多くの寺院や貴族の屋敷が立ち並び（地図

は室町時代末から江戸時代初期にかけて一条札の辻と呼ばれ、京都の代表的な人の集まる高札場（注3）でした。

1 12 賑わいました。

注3 高札場とは、幕府や領主が決めた法度や掟書などを木の板札に書き、人目のひくように高く掲げておく場所のこと。

応仁の乱（1467年～1477年）により、上京は荒れ果てました。乱以降、構で囲まれた狭い範囲で人々が生活する時代が織田信長の入京（1568年）まで続きますが、御所西一条は上京総構のすぐ北に位置し、上京の入口として活力を取り戻します。織田信長の上京焼き討ち（1573年）により一時期打撃を受けたものの、それ以降江戸時代初期にかけて、京都は大きく発展します。豊臣秀吉により寺院が寺町通沿いに強制移転したことや公家屋敷が現在の京都御苑の地に集中させられたことから御所西一条では多くの空き地が生まれ、それらの土地は禁裏（宮中）や公家御用達の商人や、医師、文化人が多く住まうエリアに変貌していきます。

1600年代末頃までの京大絵図では、京都や近郊の名所までの距離を一条札ノ辻を起点として記載されていました（江戸時代中期以降、起点は三条大橋西詰に遷る）。この様に、御所西一条の地域は各時代において著名な人々が住まい、往来した場所です。次頁の地図を参考に、多様な風景を想像しながら、ぶらりとお散歩されてみませんか。

以下の参照は、上京区役所ホームページで閲覧、ダウンロードすることができます。上京区役所ホームページのトップページにある「サイト内検索」でそれぞれ「上京乃史蹟」「史蹟と文化」を入力、検索の上ご参照ください。

参1 上京史蹟と文化第23号 上京の大路小路
一条通 出雲路敬直氏
上京史蹟と文化第51号 上京の歳時記
一条通その時空を超えた往来 小嶋一郎氏

- 参2 上京史蹟と文化第1号 上京の史蹟 四上京の歴史的推移 一条辰橋 中島泰之助氏
- 参3 上京史蹟と文化第1号 上京の昔話 一条辰橋 中島泰之助氏
- 参4 上京乃史蹟第17号 上京の古地図 消えた小川と水車 大塚 隆氏
- 参5 上京乃史蹟第18号 上京昔ばなし 渡辺綱の石燈籠 中島泰之助氏
- 参6 上京史蹟と文化第23号 上京の大路小路 一条通 出雲路敬直氏
- 参7 上京史蹟と文化第51号 新上京の昔ばなし 大峰殿と草紙洗いの井戸 福井和雄氏
- 参8 上京史蹟と文化第23号 上京の大路小路 一条通 出雲路敬直氏
- 参9 上京史蹟と文化第51号 新上京の昔ばなし 大峰殿と草紙洗いの井戸 福井和雄氏
- 参10 上京史蹟と文化第57号「美を創る」 樂焼陶芸家 十五代吉左衛門 樂直入」 福井和雄氏
- 参11 上京史蹟と文化第53号「美を創る」 武者小路千家第十四世家元 千宗守」 福井和雄氏
- 参12 上京史蹟と文化第6号「美を創る」 千家十職（塗師）十二代 中村宗哲」 中島孝雄氏
- 参13 上京史蹟と文化第7号「美を創る」 御菓子司 虎屋 十七代当主 黒川光博」 中島孝雄氏
- 参14 上京乃史蹟第15号 上京名家譜 富岡鉄斎旧宅 中島泰之助氏
- 上京乃史蹟第23号 上京の古地図 室町一条の鉄斎宅 大塚 隆氏
- 上京乃史蹟第24号 上京の遺跡 富岡鉄斎邸跡標柱の建立 中島泰之助氏



家族葬は公益社へ

小さいお葬式にも丁寧に対応します

☎ 0120-004-200
ご葬儀お申込み 無料相談 24時間受付

詳しくはホームページで
ブライツホール



平安時代～鎌倉時代

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1 小野小町双紙洗 (参7) | 2 藤原道綱の母 (「蜻蛉日記」の作者) 屋敷 |
| 3 行願寺 (一条草堂) (参8) | |
| 4 左近の馬場 (左近衛府に属した馬場、毎年5月に競馬の行事) | |
| 5 大峰寺 (参9) | 6 一条西殿 |
| | 7 一条東殿 |
| | 8 今出川殿 |

室町時代

- | | | | |
|--------------------|----------|----------|-------|
| 1 行願寺 (一条草堂) | 2 百万遍知恩寺 | 3 本満寺 | 4 真如堂 |
| 5 細川正之屋敷 | 6 讃州寺 | 7 一条殿 | 8 日野殿 |
| 9 福長稲荷 (現在もこの地に有る) | 10 仏陀寺 | 11 金山天王寺 | |
| 12 広橋殿 | | | |

安土桃山時代以降

- | | | | |
|---------------|---------------|------------|----------------|
| 1 加藤清正屋敷 | 2 筑前黒田家屋敷 | 3 楽家 (参10) | 4 武者小路千家 (参11) |
| 5 中村宗哲宅 (参12) | 6 松の丸殿屋敷 (注4) | 7 虎屋 (参13) | 8 富岡鉄斎宅 (参14) |

注4 大坂城落城後、豊臣秀吉側室松の丸殿 (京極竜子) がこの地に住まう。松の丸殿は秀頼の息子・国松の遺体を引き取り、誓願寺に埋葬した。墓所は誓願寺にあったが、明治に国松の墓と共に豊国廟に移転。



京都御所西
護王神社

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下長者町下ル
(地下鉄丸太町駅下車北へ7分)

<http://www.gooujinja.or.jp/> 電話 441-5458



足腰の守護神

歴史文字シリーズ



伝達浪漫

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御堂前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail: info@wako-print.co.jp

町名・地名は歴史のタイムカプセル ― 聚楽屋敷ゆかりの町名編 ② ―

京都産業大学 日本文化研究所
上席特別客員研究員 小嶋 一郎

前回に続き、聚楽屋敷ゆかりの町名シリーズ第2弾です。

前回は、豊臣秀吉の身内、或いは身内同然の武将達の屋敷に関する町名を取り上げました。今回は、秀吉政権下の優秀な武将たちの出番です。

①「飛騨殿町」黒門通一条下ル

蒲生飛騨守氏郷の聚楽屋敷があったということから、名付けられた町名です。蒲生家は、藤原秀郷（倭藤太）を祖とするともいわれ、近江国の名門一族です。氏郷は、六角義賢（承禎）の家臣であった蒲生賢秀の子として誕生。幼名を「鶴千代」というのは、蒲生家の家紋「対い鶴」からの命名でしょう。うか。そして、元服後に「氏郷」を名乗りますが、おそらくは先祖

であるとされている藤原秀郷にあるやかつてのことでしょう。氏郷は幼い頃から才覚が溢れ、信長や秀吉は、その若き才能を高く評価しました。まだ二十代であるにもかかわらず、陸奥の要として、会津九十万石を任せられた程です。今でも会津若松城を「鶴ヶ城」と呼ぶのは、氏郷が家紋の「対い鶴」に因んで命名したためと伝わります。また茶の湯や和歌、能など文化芸能にも、抜きん出た才能を開花させる文武両道の若き天才武将でした。残念なことに文禄4年（1595）病のため、40歳という若さで生涯を閉じました。

②「彈正町」黒門通一条上ル と「長尾町」堀川通榎木町下ル

「彈正町」は、上杉謙信の甥で



蒲生家の家紋「対い鶴」

あり、養子でもあった上杉景勝の聚楽屋敷があったと伝えられています。「彈正」というのは官職名で、律令制の朝廷において、治安や風紀を取り締まる監察・警察機関を「彈正台」といいました。そのため、「彈正」は、武家にとって誉れ高き職といってもよいでしょう。四等官制をとっており、その内訳は、長官を「彈正尹」、次官を「彈正弼」、三等官を「彈正忠」、四等官を「彈正疏」としていました。上杉景勝は謙信から「彈正小弼」を譲られ、子の定勝は「彈正大弼」に叙任されたため、以降、米沢上杉家を「彈正大弼家」と呼ぶこともあります。

また、「彈正町」から東南へ700m程歩いた所の「長尾町」を上杉景勝の聚楽屋敷ではないかと思える向きもあります。それは、上杉の元の家名は「長尾家」であったためです。実は、古い資料などから「飛騨殿（蒲生氏郷）」の屋敷の北には「浅野殿」の屋敷が推定され、それが現在の「彈正町」辺りとなっているのです。浅野長政（秀吉の義弟）も、天正16年（1588）に従五位下・彈正小弼に叙任されていたのです。「長尾町（上杉景勝邸）」の近所には「直家町（直江兼続邸址ともみられる）」もあり、ごく自然の位置関係といえるかもしれません。

或いは、「彈正町」から「長尾町」へ秀吉の命により、上杉屋敷が引越したとも考えられます。それは、義弟である浅野長政の屋敷を現在の彈正町に置くこととし、そのため上杉景勝が引越しを余儀なくされた、というケースです。身内であり近くを固めたいという秀吉の方針があったのかもしれない。

③「常陸町」黒門通中立売下ルと
なかとらよう

「長門町」下立売通七本松東入ル
ながとらよう

「常陸町」は木村常陸介重茲、
ひがしのすけしげ

「長門町」はその息子の木村
ながとらかみしげなり
長門守重成の聚楽屋敷に因んだ
町名であればスッキリするの
ですが、そうすんなりとはいか
ないようです。重茲は、豊臣秀
次（秀吉の甥）の重臣で、関白
として聚楽第で政務に就いて
いた頃の秀次をサポートするた
めに聚楽第近くに屋敷を構えた
と考えることはごく自然なこと
です。しかしながら、聚楽第があ
った頃、重成はまだ幼少の身であ
り邸宅を持っていたとは考えに
くい状況です。

長門町内の弘誓寺には、現在
「木村長門守重成 旧館（移築）の
地」と記された石碑があります。
重成は、大坂の陣の後、他所へ
落ち延びる際、都に立ち寄り、左
京の吉田にあった自身の屋敷を弘
誓寺に寄付するように差配したと
伝わっています。また、大坂冬の
陣で見事初陣を飾り、夏の陣では
決戦を前に新妻に香を兜に焚き染



木村長門守が建てさせたとされる弘誓寺境内の鎮守堂（長門町）

めるように指図。妻が理由を聞く
と「首となって敵将の前に出され
た際、失礼の無いように。」と答え
たという逸話が残っています。並々
ならぬ決意を以て赴いた戦のさな
かにも、風流な心掛けを持つ若武
者だったのです。そんな雅な感性
もまた、都で過ごしている時に身
に付けたものでしょうね。

④「有馬町」浄福寺通今出川上ル
ありまちょう

赤松氏の流れを汲む、摂津有馬
の武将、有馬玄蕃頭豊氏の聚楽屋
敷跡とされています。

建武の新政の頃に活躍した播磨
の武将、赤松則村（円心）の曾孫、
義祐が摂津国有馬郡の地頭に任じ
られてから、「有馬氏」を名乗る
ようになりました。現在の有馬温
泉周辺ですね。義祐の子、持家或
いは孫の元家は、足利義政時代の
室町幕府にも仕えていたようでそ
の頃から上京とは縁が有ったとい
うことになります。

さて、有馬豊氏の父、則頼は豊
臣時代、御伽衆として秀吉の傍近
くに仕え、豊氏自身は豊臣秀次の
家老、渡瀬繁詮に仕えましたが、
秀次事件（1595）に連座して
繁詮が改易されると、遠江の領地
を引き継ぎました。豊臣政権を支
えた則頼・豊氏親子ですが、関ヶ
原の戦いでは徳川方に味方し、父
の則頼は先祖伝来の摂津国有馬郡
三田藩を、子の豊氏は丹波国福知
山藩に封じられています。その後、
父の逝去や大坂の陣での戦功の加

柔道圓心道場

〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内西上ル下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院

〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051
<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

新・古茶道美術品

清昌堂 やました

京都本店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370

<https://seishodo.com/>
お気軽にお問い合わせください

新上京の昔ばなし

名和長年ってどんな人

私が小学6年生の時だから、もう60年以上も昔のこと。臨海学校で親しくなった友人を訪ねて、中立売大宮で市電を降りて（当時は京都駅から北野天満宮まで、市電10番のチンチン電車が走っていた。他の番号の市電よりはるかに

小さい、マッチ箱のような大きさだったことは、今でもはっきり覚えて（大宮通を北へ進むと、右手に児童公園があり、その入口に「名和長年公遺蹟」と彫られた大きな石碑と鳥居が建っていた。

友人に尋ねても児童公園だと言っただけで、石碑や鳥居の由来まで小学生が知らないのは当然だろう。傍らで聞いていたお母さんも「私がこの家に嫁いだ時には、もう在ったわよ。でも詳しいことは知らない」とのことだった。

名和長年ってどんな人

私は当時から歴史が好きで、室町幕府を創った足利尊氏や足利義満の名前は既に知っていたが、名和長年（長高）という名は全く知らなかった。同時代に活躍した楠

木正成や新田義貞などに比べても知名度は遥かに低い。

では名和長年ってどんな人だったのか。長年の疑問を、様々な資料で調べてみると、凡そその事柄が分かって来た。ただしこれはあくまで素人の一個人のことだから、日本史を専門にしている人などからすれば、周知のことだろうけれども、同時代の歴史書『梅松論（注1）』、『太平記（注2）』を参考に、60年間の頭の片隅に残っていたことを紹介してみたい。

そう思って準備に入った頃、2021年5月から『京都新聞』朝刊『古典に親しむ』面で、花園大学文学部日本史学科専任講師生駒孝臣先生の連載『太平記を読む』つわものたちの実像』がスタートした。毎週の連載を読むことで、名和長年という人物が少しは分かってきた。

名和長年は伯耆国名和（現在の鳥取県西伯郡大山町名和）で海運

「ヨキモノ」を創る

京名物 柚餅



京菓匠 鶴屋吉信
http://www.tsuryayoshinobu.jp

業を営んでいた名和氏の当主。長年が当主を務めていた時期は、海運や商業活動を行って蓄財をしており、比較的裕福な地方豪族として活躍していたようで、悪党と呼ばれる武士であったとする説もある。しかし、『太平記』では長年のことを「家富み一族広うして、心がさある者（裕福で一族は繁栄しており、長年本人は度量が広い人物）」として紹介している。父の名は名和行高といわれるが

詳細は不明で、長年の生年も分かっていない。長年の長男、義高が1302年生まれであることから、1280年頃の生まれと推測される。長年の元服の経緯なども不明で、当初は、「名和長高」と名乗っていたこと以外、長年の前半生の詳しい歩みはほとんど何も分かっていない。そんな長年が歴史上に表れるのは1333年の後醍醐天皇隠岐島脱出からのことだった。

隠岐島に流された天皇

後醍醐天皇は1318年3月、第95代花園天皇の譲位を受けて31歳で即位した。1324年10月に、後醍醐天皇とその腹心の日野資朝・日野俊基が鎌倉幕府に対して討幕を図った正中の変が起った。4カ月に及ぶ鎌倉幕府方の調査で、後醍醐天皇と俊基は冤罪とされ、公式に無罪判決を受けた。

この後、1331年には、側近吉田定房の密告によって倒幕計画が発覚し、自らの身边にまで危

険が迫ったため急遽京都脱出を決断、三種の神器を持って挙兵した。しかし、幕府方に捕えられ、隠岐島に流された（元弘の乱（元弘の変））。

天皇と長高の出会い

幕府の千早城攻めの失態と、幕府打倒のために播磨国の赤松則村、肥後の菊池武時など西国の武士が反旗を翻したことや、吉野山で護良親王が奮戦していたのを好機と見て、天皇の警護をしていた佐々木義綱を味方に取り込み、1333年閏2月24日、千草忠顕の引率により後醍醐天皇は隠岐脱出を強行した。風に乗って南下した後醍醐天皇一行は最初出雲の杵築浦を目指したが西風に流され4日後に伯耆国名和湊に到着した。途中で追手の船に追いつかれたが、後醍醐天皇は干し魚の下に隠れた後、船頭が「怪しい船が出雲を目指して進んでいた」と追手を欺き、難を逃れることができた

いう逸話が残る。

名和湊につくと忠顕が先ず上陸して道行く人に「この辺りに武勇で知られた者はいないか」と訪ねると、「有名な武士ではないですが、名和長高という財産があり思慮に富んだ人物がおります。この人と一緒に討死してもよいと考えている一族は、百人、二百人もいます。この人に頼んでごらんさい」と答えた。

そこで忠顕は勅使として名和氏の館に行き、「天皇が湊に來られて、



 HOSOO

HOSOO FLAGSHIP STORE

〒604-8173 京都市中京区柿本町 412
TEL 075-221-8888 10:30-18:00（祝日を除く）
www.hosoo.co.jp



其方の武勇を聞き及んで頼みとされている。速やかに迎えに来る用意をしてもらいたい」と告げた。

この時名和一族は酒宴の最中だったが、突然の要請に答えることが出来なかった。長高は悩んだ。名和湊周辺では絶大な力を持つものの家柄が良いわけでもなく、高い身分でもない自分としては、後醍醐天皇に協力すれば一族の立場を高めるきっかけとなるものの、幕府を敵に回すことも意味するからだった。

そこに長高の弟である長重が進み出て「昔から今に至るまで人の望むところは富と名誉です。たとえ屍を戦場にさらすことになっても名を後の世に残すのは名誉なことです」と言った。

そこで長高は「君はいずこにおわたしたまうのか」と尋ね、忠顕が「いまだ御船におわす」と返答すると、長高は「しばらくお待ちください」と言いつて内に入り、馬に鞍を置いて引き出して忠顕を乗せ、自分は

鎧を着て、兄弟、子供五十人余りを従えて、歩行で御迎えに参上した。名和一族が天皇を奉じて挙兵することを決意した瞬間だった。

船上山に仮御所を作る

自らの家屋敷を仮皇居にするのも一つの考えではあったが、要害の地（防衛・戦闘性に富んだ場所）ではないため、後顧に憂いのないように家に火を懸けて焼き払い、大山の北に連なる船上山という險阻な山へ御馬でお連れして、頂上に仮御所を作った。柴などを折り敷いて餉飯を御膳部に備えた。

夜が明けると後醍醐天皇は討幕のため、錦の御旗を掲げた。挙兵といっても、その兵は長高の私兵と領民がほとんどだった。翌日、佐々木隠岐守清高らが3000騎を率いて山の麓に押し寄せた。長高方は150騎程度といわれており、戦力差は歴然だったが身命を捨てて終日戦ったので、寄せ手の軍勢は予想外の攻撃を受けて動揺

し、多数が傷を負って引き退いた。幕府軍はこの壊滅で士気が一気に低下したのだった。

また戦いの際には、攻撃には弓の名手であった長高が五人張りの強弓を引いて一矢で二人の敵兵を射抜くなどの活躍を見せたとも伝わる。

名和長高の奮戦を見た後醍醐天皇は、長高のために「忘れめや寄るべもなみの荒磯を御船の上にとめし心は」という歌を詠まれた（『新葉和歌集』に採録）。この時まで名和長高と名乗っていたが、後醍醐天皇の「長くて高いのは危険なことではないか」との御言葉により、長年の名を贈られたとされる。

こうして、船上山での戦いは、長年軍の活躍により兵数に劣る後醍醐天皇方が勝利する結果に終わり、その時の戦いの様子はたちまち全国に知れ渡った。

その結果、諸国の御家人たちは幕府軍にもはや力がないと見切り



<https://reizeike.jp>



公益財団法人

冷泉家時雨亭文庫



心しづめの宮

御霊神社

(上御霊神社)

毎月18日 さえずり市(5月を除く)

上京区上御霊前通烏丸東入

電話075-441-2260

をつけ、新たな神輿として後醍醐天皇を担ぐために次々とその下へはせ参じることとなった。そして、後醍醐天皇は、この船上山行宮において鎌倉幕府討伐の綸旨を發し、倒幕の挙兵を行った。船上山に天皇を迎えて討幕活動に参画するまでのくだりは『太平記』『梅松論』に詳しい。

建武政権の幹部となる

西国における討幕運動の高まりに焦った幕府は、足利尊氏を派遣して後醍醐天皇軍の鎮圧を試みよ



伝名和長年像（部分）

（長谷川等伯画／東京国立博物館蔵／重要文化財）
最近の研究では同時代の武士である可能性が高い

うとした。しかし、当の足利尊氏が、1333年4月29日、源氏の氏神である八幡大菩薩を祀る篠村八幡宮（現在の京都府亀岡市篠町）で反鎌倉幕府の立場を表明して後醍醐天皇方に寝返った。そして尊氏は、東進してきた赤松則村ら周囲の反鎌倉幕府勢力を取り込み、同年5月7日、京の鎌倉幕府勢力の拠点である六波羅探題を攻め落とした。反鎌倉幕府の流れは鎌倉にも及び、同年5月22日、新田義貞によって鎌倉が陥落し、北条高時をはじめとする北条氏一門が東勝寺で自刃して幕府は滅亡した。これを聞いた後醍醐天皇は、1333年6月5日、長年らの護衛に伴われて京に帰り着いた。

後醍醐天皇は、幕府の滅亡により自身の下に戻ってきた政治の実権を駆使し、

天皇親政を行うため大改革をはじめた。『建武の新政』と呼ばれる天皇親政の復活で、長年は建武政権の幹部となった。

このとき、建武政権樹立の論功行賞も行われた。長年は、旗揚げ直後からの腹心となる「三木一草（注3）」の一人として大抜擢がなされ、河内国の豪族、楠木正成らとともに天皇近侍の武士となり、記録所や武者所、恩賞方や雑訴決断所などの役人を務め、帆掛け船の家紋を与えられた。また後醍醐天皇が京都の商業・工業を直接掌握するため、左京の市司である東市正に、さらに伯耆国・因幡国守護に任じられた。

1336年、足利尊氏が、護良親王の失脚と中先代の乱を契機に建武政権から離脱してしまった。長年は、楠木正成・新田義貞・北畠顕家らと共に後醍醐天皇方の主力として戦い、一旦は足利尊氏を九州に追い払った。勢力を整えて再度進軍してくる尊氏は、途中1



北野天満宮

学業成就

災難厄除

平安京
の天門
厄除、疫病退散
御霊信仰の社

全国天満宮総本社

アクセス 市バス「北野天満宮前」下車すぐ
住所 京都市上京区馬喰町
電話 (075) 461-0005

336年の湊川の戦いで楠木正成を討ち取り、新田義貞をうち払ったことで、もはや建武政権側にこれに抗う力は残っていなかった。そして、ついに足利尊氏が、後醍醐天皇がいる京に向かって進軍してきた。

京での防衛戦では勝ち目がないと判断した後醍醐天皇らは、尊氏が京に上つて来る前に三種の神器を持ち、長年ら重臣を引き連れて比叡山に逃れて行った。

1336年5月、京に入った足利尊氏は、東寺を陣所とし、京に残っていた光厳上皇と協議して、光厳上皇を治天の君（院政において実権を握って政治に当たった上皇）に擁立した上で、その弟豊仁（後の光明天皇）を天皇に据えることを決めた。

もつとも三種の神器は後醍醐天皇が持つており、光厳上皇・足利尊氏方に天皇を擁立する正統性はなく、力づくで比叡山に籠る後醍醐天皇から奪い取ろうと考えるに至った。

名和長年の最期

後醍醐天皇は、西側に千種忠顕

軍を、東側に新田義貞・名和長年・脇屋義助軍を配置して足利軍を迎え撃つことによって戦いが始まった。

1336年6月7日、千種忠顕が足利直義に敗れて戦死、足利尊氏軍も損害が大きく、一旦京に撤退した。尊氏を討ち取ることは困難と判断した長年・新田義貞らは、東寺の囲みを解いて比叡山に向かって撤退したところ、足利尊氏が追撃軍を出した。撤退途中の長年は、6月30日、一条院跡付近で戦死。『太平記』では大宮通一条の合戦、『梅松論』では三条の猪熊の合戦とされており、正確なところは分かっていない。

後醍醐天皇の隠岐島脱出からわずか2年余、名和長年の名前はこうして歴史の舞台から消えてしまった。明治になり、長年は、天皇に殉じた英雄として楠木正成と

共に日本統治のプロパガンダとして利用され、1886年に正三位、1935年には従一位を追贈され、戦死の伝承地である「名和長年公遺蹟」に石碑が建っている。

（福井和雄）

（注1）『梅松論』は、南北朝時代の歴史書もしくは軍記物語。全2巻。著者は不詳だが、武家方（室町幕府、足利氏）側の人物といわれる。主に鎌倉時代後期の両統迭立期から斯波高経率いる室町幕府・北朝方の軍勢との間で行われた金ヶ崎の戦いまでを描く。

（注2）『太平記』も、南北朝時代を舞台にした軍記物語。全40巻で、後醍醐天皇（第96代天皇および南朝初代天皇）即位から始まり、鎌倉幕府滅亡や建武の新政、南北朝分裂、観応の擾乱を経て、2代将軍足利義満の死と細川頼之の管領就任までの50年間を描いている。

『梅松論』と『太平記』は同時代を扱った双璧の書といわれ、一般に『梅松論』は武家方（室町幕府、足利氏）寄り、『太平記』は宮方（南朝）寄りとされるが異論もある。

（注3）「三木一草」とは、建武政権樹立の功勞者である4人、結城親光・名和長年・楠木正成・千種忠顕の総称で、「ユウキ」「ホウキ（名和が伯耆守であったため）」「クスノキ」「チクサ」と4人の姓や官職の読みに関わるもので、地方の一豪族からすると考えられない大出世だった。

京都市指定



水を大切に・・・（24時間・年中無休）
水道・下水道修繕工事(空調)・井戸ポンプ設備・建物リフォーム

大西工業株式会社

〒602-8072 京・上京区中長者町通新町西入 TEL.(075)451-3123 FAX.(075)432-2874

0120-350672

消 防 設 備 全 般



上京新能

上京区文化振興会及び上京区役所では、豊かな歴史に育まれた伝統文化を継承し、発展させることを目指して、昭和40年から開催しています。今年はコロナ禍を経て、3年ぶりの開催となります。

かがり火に照らされた幽玄の世界をお楽しみください。御来場をお待ちしております。

日時 令和4年9月21日(水)

第一部開演 午後4時(午後3時30分開場)

第二部開演 午後6時(終演予定 午後8時30分)

場所

白峯神宮(上京区今出川通堀川東入北側) ※雨天の場合 金剛能楽堂(上京区烏丸通中立売上ル)

内容

第一部

各社中による仕舞、舞囃子^{まいばやし}、居囃子^{こと}、独調、箏演奏の発表

第二部

麗調会・箏「千鳥の曲」

観世流・仕舞「駒ノ段」「鶴ノ段」「笹ノ段」「枕ノ段」

金剛流・舞囃子^{たかさご}「高砂」

大蔵流・狂言「清水」

観世流・能「花月」

入場料

前売券 2,000円、当日券 2,500円

※前売券は、8月22日(月)から、上京区役所地域力推進室(1階1番窓口)と白峯神宮で販売します。

主催

上京区文化振興会・上京区役所

協力

白峯神宮

問合せ先

京都いつでもコール ☎075-661-3755 ※お掛け間違いに御注意ください。

元祖

畑かく

京・上御霊前烏丸西
☎〇七五・四四一・〇六一〇代

ぼたん鍋と京料理

www.toraya-group.co.jp

京都に生まれて五世紀

「みんなで花を咲かそう」 活動ボランティア募集

上京区総合庁舎前の花壇をボランティアとして、毎日水やりや手入れをしています。また、年に2回、季節の花々に植え替える「一斉植替え」を行っています。6月には、ピオウから夏らしいハイビスカスに植替えました。

美しい花々で来庁者の皆様をお迎えしませんか。

興味をお持ちの方は電話、FAX又は、窓口(1階①番窓口)にてお申込みください。

対 象：区内在住の18歳以上の方(高校生除く)

問合せ：上京区役所地域力推進室(まちづくり推進担当) TEL 075-441-5040/FAX 075-441-2895



※撮影時のみマスクを外しています。

文化 絵巻



区内にお住まいの文化人の方々に、御自身のお仕事や体験を交えながら、「文化のまち・上京」の魅力についてお話しいただく講演会(文化絵巻)を開催しています。

第8巻となる今回は、2月11日に重要無形文化財(総合認定)保持者である金剛流能楽師 種田 道一氏を講師としてお招きしました。

「能を楽しむ」と題して、能の実演を交えたユーモアのあるお話しで能の魅力をお伝えいただきました。

上京茶会

春の「上京茶会」が6月25日に妙顯寺にて表千家の懸釜で開催されました。密を避けるため人数制限を行い、本席のみの実施とするなど感染症対策を講じ、3年ぶりに開催することが出来ました。

美しいお庭とともにお茶を味わい、初夏の爽やかなひとときをお過ごしいただきました。



表紙写真

白峯神宮(京都市上京区今出川通堀川東入飛鳥井町261番地):百日紅
撮影:写真家 水野克比古氏

白峯神宮の祭神は崇徳天皇と淳仁天皇です。保元の乱で悲運の運命を辿られた崇徳天皇の霊を慰める神社を創祀されようとした孝明天皇の御遺志を受け継がれた明治天皇が明治元年に創建されました。ついで同6年には道鏡により淡路に配流された淡路廃帝を淳仁天皇として合祀されます。当初、官幣中社白峯宮と称していましたが、昭和15年、天皇奉祀の社であるところから官幣大社白峯神宮となりました。

また、球技の神様として有名で、「まり」の守護神として「精大明神」が祀られ、日本サッカー協会をはじめ各種スポーツにおいて使用された公式球が奉納されています。けまりはボールを落とさない事・落ちないことから、勉学の神 白峯天神様のご利益が学力を落とさない・試験に落ちないなどと縁起が良いとされています。

【広告主募集中】本誌に広告を掲載しませんか？

「上京-史蹟と文化」に有料広告の掲載を希望する広告主を募集します。商品のPRや企業のイメージアップに、ぜひご検討ください。
問合せ:上京区役所地域力推進室(まちづくり推進担当) TEL 075-441-5040 FAX 075-441-2895

売買や相続、建築・リフォーム、残置処分にいたるまで

住まいにまつわるお困りごとはお任せください。

寺社仏閣の借地管理等で培った豊富な経験でお手伝いいたします。



いにしへの町を、想う。 602-0898 京都市上京区相国寺門前町647番地1

玄武管財

☎ 075-411-1214

info@kyoto-genbu.co.jp http://kyoto-genbu.co.jp/



「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL 441-5040)



- 神学部 ●文学部 ●社会学部 ●法学部 ●経済学部
- 商学部 ●政策学部 ●文化情報学部 ●理工学部 ●生命医科学部
- スポーツ健康学部 ●心理学部 ●グローバル・コミュニケーション学部 ●グローバル地域文化学部



同志社大学

Doshisha University
https://www.doshisha.ac.jp



お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL : (075) 251-3120



京都人さえもが恋するホテル。

BRIGHTON
KYOTO

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411（代）FAX.075-431-2360
https://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/

(東洞院通)
大丸さん北隣のよろず屋 四条店では
**時計・貴金属
高価買取実施中!**
鑑定書なしでも高額査定!

グループ創業70年の信用と安心
ブランド品 販売・買取 (株)よろず屋

京都府公安委員会許可 古物商 第11061号

本店 地下鉄「今出川駅(6番出口)」隣 0120-25-0700
TEL 10:00~19:00 [土曜は18:00迄] 土日曜・祝日 10台有

四条店 地下鉄「四条駅(20番出口)」すぐ TEL 075-241-7900
TEL 10:00~19:00 大丸京都店 北隣(東洞院通) 年中無休

●FGA(英国宝石学協会)認定資格者がおります。●公共機関の鑑定士もつとめています。

「たのんでよかった!」
皆様のそのひとことを目指した
住まいづくりを心がけております。



西陣の大工さん
みずほ工務店
TEL.075-204-8283
http://www.mizuho-koumu.com
京都市上京区上立売通浄福寺西入上る真倉町752

本田味噌本店
京都市上京区堂町通一茶五八



西京白味噌®

<http://www.honda-miso.co.jp>



山田松香木店
香木・薬種・薫香

〒602-8014
京都府京都市上京区勘解由小路町164
(金町通下五上上ル)
TEL(075)441-4694
FAX(075)441-1124



MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マールブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北山門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM-6:00PM 年中無休 (喫茶10:00AM-6:00PM)
www.malebranche.co.jp

商品予約専用フリーダイヤル ☎ 0120-668-399

単なるデリバリーカンパニーでなく、
人や企業の信頼を結ぶ運送会社です
どんな内容もまずご相談を!

商品のお預かりから梱包作業、配送まで

封入作業・ダイレクトメール(DM)配送・郵便出荷代行

機密書類の溶解処理

ルート配送・チャーター便(軽貨物～4t車まで)

引越サービス



近運貨二第186号(社)京都府トラック協会会員

株式会社 デリバリーサービス

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル大文字町238番地

TEL(075)662-8255 / FAX(075)662-8257
<https://delivery-service.jp/>

